

玄唱院日雄上人

法華初心得章節要

附錄〔トラホーム〕豫防説



小生は明治元年四月十七日生父は佐野折右衛門母は同くトモと申す小生七歳の時き大學し其時の教諭は不世出の英才を有したる東光密庵と云良師なり後師代はりて桐林初治郎と云最も有爲の教師なりしが小生愚にして兩師の命を背き光陰を徒費し來りしに不幸にして明治十六年四月十日午前八時頃眼病を煩ひ愚頑者となり頑固の故に醫師の好手術あるを知らず目を積み月を重ねるに従ひ益々重症依て明治廿一年開業醫師の診断を受け始めて「トラホーム」眼病と認められ實に驚愕す該醫の好手術を蒙り當今目失せず兩眼全きを得ること此を思ひ彼れを思へは小生の心中の喜び手の舞ひ足の踏み處を知らず實に喜悅に堪へず依て其御禮には不肖不潔の体と雖も命終りし其後は飽きて醫師に解剖を乞ひ諸人の爲めに其病理ある事を御研究の一助に相供へらるゝを最喜悅とす此れに付前記の如く愚者なれど





も開業醫師好手術ある事と教師の英才と且つ自身の不品行とを一話して諸國を巡回す世人よ「トラホーム」は最も怖るべき病なり此の「トラホーム」は特發なるか傳染性なるかと云事を捨身決定して一談を然し壽命は老たるも若きも定なき習慣なり母は不幸四拾七才にして黃地の客となる父は五拾九才祖父は八拾壹才目下壯健なり小生參拾參才専ら衛生を守り七拾七歳八拾八歳尙ほ長命せんと望むは余の好む所且つ人情の然らしむる所なり予も「トラホーム」に患苦を事數年診に目の病には學問が大敵と其語に隨ふにはあらざれども讀書をれば必ず害あり嗚呼後悔先立す予も少年の内に學せるとは醫士に早く診察を請けざるを我身を撮て人の痛きを知れとやら少年諸氏よ予が如く無學無能にて一生を送る勿れ勵むべきは學文恐るべきは「トラホーム」ある少年諸氏よ早く醫士に診察を受けよ初發なれば必ず壹

貳週間にて必ず全治す信心一方や的て藥や賣藥にては小生の眼病には全治しなかつた

山梨縣西八代郡山保村第六拾六番戶平民

佐野壽治郎

人面各々不同人心何得似愛辛與好甘去彼還取此非非不必非是是豈能是萬事  
体言佗只須先責已



● トラホーム 豫防法

三嶋眼科醫院三島義成先生講述

佐野 某 筆記

抑も「トラホーム」の病なる急性「トラホーム」慢性「トラホーム」の二症あり急性「トラホーム」に感染するときの半日乃至一日位は格別のことも無しと雖も漸々眼中に異物有る感を感じ充血を起し涙だ流出して實に不快を來す而して六七日経過すれば差明して眼中焼くが如くの熱を發す併し多分の疼痛はなく眼瞼の腫脹して眼を開くことが出来ぬ恰も流行眼と能く類似す唯異なる所は眼瞼の内面に顆粒恰も(カツノ子)は形ちの物を發生するを以て流行眼を異なりとす病ひ重きときは角膜に浸潤を生じ小潰瘍或は(ハンヌス)と云淡曇を來す非常に進行蔓延するときは失明せる事あり而して此の症と適當の治療を充分に加へるとさき一二週間にして全治するものなり不適當治療の或は治療を加へず擱置くときは全治することなく遂に慢性「トラホーム」に陥り永久の患者を遺すものなり

慢性(トラホーム)は急性「トラホーム」より轉じ或は慢性「トラホーム」の病原即ち微菌を感染して發するものあり極めて初期に之自分の感に殆ど注意に解せず數日を經過して始めて眼瞼が重く眼裂細くなりて風や光や或は煙りの場所にて羞明涙漏し眼内異物の入るが如くの感覺を起す併し冷水を以て洗ひ或は一二月休業すれば再び輕快を覺ゆ更に自分の眼中に「トラホーム」の發生したることを知らず二三年乃至四五年を送る者甚だ多し四五年来れ病ひ角膜に浸入して角膜溜瘍及び「ハンヌス」を生じ眼瞼彎屈して倒毛症を起し此時始めて醫士の診察を乞ふ時來るものあり

(原因) 此病は傳染病にして患者の分泌物即ち涙液及び眼指なきに極微の微菌を含有するを以て其の分泌物を手指或は手巾に附着したるものを以て眼目に觸れし或は在方の風呂湯及び洗湯に入浴して面部を洗ひ其「トラホーム」の毒を含有したる湯を眼中に浸入して傳染を如何となれば在方湯入浴者數千人洗湯には數百名の入浴者あり其の内には必し多數の「トラホーム」の患者必ずあらん我國の「トラホーム」の蔓延を來す是れが二原因ならん

(豫防法及消毒) 身体を清潔にし「トラホーム」患者に直接したるときは直ちに手を洗ひ患者の使用したる衣類手巾及び器具等に注意し共同するを禁し各自必ず之れを所持し決して他人の者を使用す



可らず學校にては宜しく校長其の責を負ひ「トラホーム」患者ありを直ちに之れを遠ざけ登校を禁ずるの亦た之別舎に入れ健全の生徒と交通するを禁ずるを要す亦其の生徒の用ひたる器械を用ゆるとき心す二十倍の石炭酸水を以て之れを洗ひて消毒すべし而して「トラホーム」患者の衣類手巾等の消毒せるに二十倍の石炭酸水を浸すこと十二時間なる可し十二時間浸漬するにあらざれば「トラホーム」は微菌死滅せず后ち常水を以て洗濯して用ゆるか或は煮沸消毒法を以てするも良とす其法沸湯后ち一時間以上沸湯まで后ち使用す可し之れ微菌消滅すること確實なり

(治療法) 慢性「トラホーム」の療法に種々あり熱液治療法器械的治療其の一ハ刷毛(西洋揚子)にて摩擦し或ハ亂切療法其他種々あり余が治療と米國クナップ氏車轉錐子を以て顆粒を壓出し根治せしむ此法ハ少も痛なく再發することなき確實の治療法なり

(歴史) 「トラホーム」ハ十九世紀の初め歐羅巴の軍人中ハ大に流行したり其の以來軍人眼災と稱したり一千七百九十八年七月第一世ナホレンタン三万二千の兵を埃及に出兵したり其時劇しき眼災に罹り后ち歐洲ハ歸國の際全病を輸入し嘗て埃及ハ限局せし疾病を歐洲に蔓延せしむることハなれり故之れを埃及眼病と名けたり其後歴史の検査によりて既に歐羅巴も風土病とありて存在しと

云ふ其后ナポレオン大戦に由て兵士と庶民とハ交通繁劇となら故ハ疾病甚々蔓延し二三の國ハ於て頗る猖獗を極めたり「英國」に於て一千八百十八年「トラホーム」ハ爲め五千以上の廢兵を出し(失明す)

(普國) 於て千八百十三年より千八百十七年に至る五年間に二萬五千の兵士を浸またり露國の軍隊に於けるも千八百十六年より千八百三十九年に亘り七万六千八百十一人の「トラホーム」患者を出し白耳義に於ても千八百四十年兵士五人毎に一人の「トラホーム」患者を出したり其他各國此病に浸るゝ國甚だ多と雖も略す

◎神儒佛三道内證一致故互不可争之事

次ニ神道ト申スハ先ツ俗談士ノ神道者云ク 吾朝者神國ナレバ佛法ト混乱スベキニ非ス然レニ世澆季ニ及ンデ神道ノ根元其尊キ事ヲ知ル者ナシ適神道ヲ演說スル者アレドモ佛道ノ爲ニ覆ハレテ世人是ヲ知ル事マレナリ依之自然ト佛法ヨリハ劣レル如ク思フ者多シ全ク左ニ非ニ神道ト申ハ天然自然ノ道理ニシテ方法ノ根本ナレバ天地開闢ノ最初清ルハ昇テ天トナリ濁ルハ下テ地トナル其中ニ



神聖化生是ヲ國常立尊トモ天御中主尊トモ或ハ天常立尊トモ申シ奉ルナリ夫レヨリ國狹樞尊豐尊  
尊泥土表沙土表尊大戸道大苦邊尊而足惶根尊伊弉諾伊弉册尊是ヲ天神七代ト云此諸册尊ヲ父母トシ  
テ出生マシマセシカ即日神天照太神也其次ヲ忍穗耳尊瓊杵尊彦火火出見尊尊不合尊此ヲ地神五代  
ト云尊不合尊ヲ御子ヲ神武天皇ト申シ奉ル人皇ノ始メ也此ヨリ以來今上帝ニ至ル迄連綿トシテ神統  
ヲツガセ玉ヒ諸司百官ヲ始メトシテ下万民ニ至ル迄神孫ナラザル者一人モナシ然レハ一切衆生ノ始  
祖タル神ノ定メ玉ヒシ道ヲ尊敬スベキ所ニ反テ異方ノ儒佛ヲ信用スルハ已レガ先祖ヲ忘レテ他人ノ  
先祖ヲ敬フニヒトシ且佛法ニテハ神ノ本地ヲ佛菩薩ナリト云フ既ニ釋迦佛ハ我國尊不合尊ノ御宇ニ  
當テ天竺ニ出生セリ是ヲ以テ考レバ天照太神ヨリハ年代二百萬歲餘後レタリ何ゾ後ニ出タル佛ガ其  
以前ノ諸神ノ本地タル道理アラナト談スル由承リキ是ヲ明カニ辨セズンハ神佛本迹ノ理明メガタ  
カラシ依レニ童蒙ノ爲ニ其大畧ヲ示スベシ抑々天地開ケシ時神其中ニ化生ス是ヲ國常立尊ト云フ  
事神代ノ卷舊事記古事記等ニアリテ誰カ是ヲシラザランヤ雖レ然國常立尊自然ニ天地之間ニ生セ  
トイハ、無因有果ノ道理ニシテ邪見也世界ニ因ナクシテ生スル者アル事ナシ是ヲ以テ論セバ此尊ハ  
何ゾ因縁ニヨリテ此ノ國ニ化生セシヤ神職ノ輩此理ヲバ如何ガ會釋スルヤ是ヲ佛書ニ考ル時ハ青天

ヲ見ルガ如シ長阿含經ニ云ク火災過已此世天地還欲成時有餘衆生ニ福行命尽テ於ニ光音天ニ身壞命  
終生ニ空梵所ニ自念言ス我是梵天王ナリト云云龍樹菩薩大智度論ニ云劫尽テ燒ル時一切皆空衆生因緣  
ノ力ノ故ニ十方風至テ相對相觸テ能持大水水上有一千頭二千手足一名ヲ爲ニ韋紐ニ是人臍ノ中ニ出  
千葉金色妙蓮華ヲニ其光大明如萬日俱照華中ニ有レ人名ヲ爲ニ梵天王此梵王ノ心生ハ子ハ子生  
天地人民ト云云是ヲ受テ行基菩薩ノ寶山記ニ此梵天王ノ心ヨリ生ハ子ハ子生天地人民此名ニ天  
神ニ亦稱ニ天帝ノ祖神ト也天神ノ上首天ノ御中主尊也極天ノ祖神ハ高皇產靈ノ皇帝也大日本州造化  
神ハ伊弉諾伊弉册尊也ト云云然バ天御中主ハ國常立ノ事ナレハ御父ハ梵天王也此梵王ハ一切衆生ノ  
父ナリト法華經ニモ説セ給フ此梵天王ハ即久遠下種ノ釋尊ノ分身也故ニ法華經壽量品ニ云ク然ニ我  
實ニ成佛シテ已來久遠如斯乃至或説ニ已身ニ或ハ説ニ他身ニ或ハ示ニ已身ニ或ハ示ニ他身ニ或ハ示ニ已事  
ヲ或示ニ他事ト申シテ種種ニ身ヲ變作スルガ佛ノ自在ノ神力也是ヲ示九道身普現色身三昧ト云也爰  
ヲ以テ 我朝ニハ神ト示現シテ國ヲ開キ玉フ故ニ國常立ノ尊ト稱ス其故ハ法華經授記品ニ云ク  
彼國常以ニ菩薩ニ莊嚴スト説セ玉フサレバ此尊國常ノ字ヲ以テ名トシ玉ヒ彼迹ノ國土ヲ一尊四菩薩ニ  
テ常住セシムルト云義ナレハ是又久遠ノ釋尊分身也サテ又此國常立ヨリシテ 我國ノ人民ハ悉



ク出タレバ其本地ハ皆久成ノ釋尊ナルガ故ニ神佛内證替ル事ナシトイヘドモ暫ク示現ノ日神ハ正直  
ヲ本トスル故濁レルヲ嫌ヒ玉フ儒佛二道ハ濁惡ノ者ヲモ教化スルガ持前ナルニヨリ佛道儒道ト濁  
音ヲ用ヒ神道ハ清音ニ呼ブモ是自然名ハ体ヲ顯ハスノ道理也是故ニ上古ハ人皆正直ナレバ神道ニテ  
國治ルトイヘトモ地神ノ末ニ至テ人ノ心モ邪曲ニ成リ行シ儘神ヲ守護スル事アタハス儒佛ニ教化ヲ  
ユヅリ玉フ依レ之儒佛ノ両道盛ニ行ハル、ガ中ニヨ別シテ佛道ハ本源タルノ間天照太神ヲ託宣テ止  
メテ化ヲ佛ニユヅリ天上ス此事伊勢神藏書十二卷ノ中寶基本記ニ出タリ其詞ニ云ク垂仁天皇即位廿  
六年丁巳冬十一月新嘗會ノ祭夜神主部物忌八十氏等ニ詔ス吾今夜承ニ太神之威命ニ所ニ託宣也神主部  
物忌等慎テ無レ懈正ニ明ニ聞焉人乃天下ノ神物奈利須ク掌ニ靜體ニ心乃神明之主多利莫傷ニ心神ヲレ  
神ハ垂以ニ祈禱ニ爲レ先冥加以ニ正直ニ爲レ本須乃至神代仁者人心聖而常也直而正也地神ノ末天下四方人  
夫等其心神黑焉分ニ有無之異名ニ乃至故沈ニ生死長夜闇吟根ノ國底ノ國ニ因ニ茲奉レ代ニ皇天ニ西天眞  
人以ニ苦心ニ誨諭令レ修レ善隨レ機授レ法已來太神歸ニ玉フ本居ト云云如此不正直ノ者ハ心ヲタナクナリテ  
守ル事アタハザレバ教化ヲ本地ノ佛ニユヅリ奉リ体ノ天照太神本居ノ天ニ皈リ玉ヘハ其他ニ千餘座  
ノ用ノ諸神モ同ジク本土ニ皈リ玉フ事一月万水ニ影ヲ浮ルガ如ク天月西山ニ入ヌレハ萬水ニヨ月

ト事ナシ是同シク体ノ天照太神天上シ玉フ故用ノ諸神モ又々天上ス故ニ魔類ハ時ヲ得テ其社ニ  
入替ントス是ヲ防グ事ハ佛法ニアラザレバ叶ハザル故是ヨリシテ佛ノ八萬法藏十二部經等ヲタテ來  
テ漸ク神國佛國トナリシモ内證一致ニテ每自作ニ是念ニ以レ何令レニ衆生ニ得ル入ニ無上道ニ速成ヲ就佛身  
トノ大慈方便ノナス所也故ニ止觀ニ云ク和光同塵ハ結縁ノ始メハ相成道ハ以論ニ其終ト云云依レ  
之冥機ノ前ニハ諸佛以ニ無縁ノ大悲ニ和本地實證之光同ニ九道隨類之塵ニ作レ神作レ鬼權理出沒ヲ罰ニ  
穢惡實ニ正信ニ愛ヲ以テ 我國ノ宗廟天照八幡等ヲ始メ奉リ八百萬神各本地ノナキ神ハ一神モ是  
ナシヤレバニヤ何レノ神ニテモ或ハ大明神大權現又タハ靈神等ト稱スルヲ以テ知ルベシ皆釋尊ノ異  
名也悲華經ニ云ク我滅度ノ後於ニ惡世中ニ現ニ大明神ト一廣度ニ衆生ト云云最勝王經ニ云ク世尊金剛  
体權現ニ於化身ト云云四十二章經ニ云ク阿那含者壽終テ靈神上ニ十九天ニ證ニ阿羅漢果ニ云云然レハ諸  
神ノ名ニ依テモ自然ト其本地ヲ顯ハス現證ナリ故ニ春日大明神ノ神詠ニモ我ヲシレ釋迦牟尼佛世ニ  
出テハヤヤクキ月ノ夜ヲ照ストハト云云佛ノ垂迹ナル事ハ明カナリ其上春日太明神ハ神職ノ長上吉  
田家ノ祖神ナレドモ大明神ト稱スルノミカ慈悲萬行大菩薩ト稱スル由彼家ノ兼邦ガ著ハセシ神祇正  
宗ニノセタレバ破佛ノ神道者モ否トハイハルベカラズ加之神職ノ徒ラ大明神大權現ト稱スル神ニ



ツカヘテ口腹ヲ養ヒナガラ佛法ヲ嫌フハ舜ノ犬曉ヲ吠ルニヒトシクカヘツテ神明ヲ毀謗スルニナリ  
 ヌサレバ聖徳太子ハ我朝ノ聖人ナレバ兼テヨリ此事ヲ存スルカ故ニ神職憲法十三ニ云ク神官勳レバ  
 嫉ニ佛典興起ニ排ニ儒文弘行ニ乃至有レ時來ル不可得防ニ寧與レ妬ニ他隆興ニ已隘セヨト云云文ノ意ハ三  
 道ハ路異ニシテ致一ナレバ互ニ妬ニ争ベカラズトノ教ナリ又曰ク篤ク敬ニ三法ニ三法ト者儒ト神ト佛  
 ト也即チ四姓之惣歸萬國ノ大宗也不レ飯ニ三法何直狂ト云云是故ニ十善萬乘ノ天子ヨリ下萬民ニ  
 至ルマデ佛法ヲ尊信スル事千有餘年ニ及ベリ依レ之 主上ヨ御讓位ノ後ハ法皇トナラヒ玉ヒ崩御  
 ノ後ハ泉涌寺ニ御尊体ヲヲサメ奉リ佛經ヲ讀誦シテ追福ヲイトナシ奉リ或ハ神祇伯白川王并ニ吉田  
 家伊勢ノ祭主藤波家等ノ代々ノ中ニハ老後ニ至リ剃髮染衣ノ身トナリシ者モアリ況ヤ吉田家ニテハ  
 神龍院ト云寺ヲ建テ代々ノ人此寺ニ葬埋シ佛事ヲ修ス故ニ梵舜ト云ヘルハ吉田ノ子息ニシテ神龍  
 院ニ住職セリ其外月卿雲客ノ子弟ハ更ニモイハズ王子王孫等出家スル者是多シ其上 禁中ニテモ  
 佛法ヲ修スル事諸人ノ知ル處ナレバ事新ラシク申スニ及バズサレバ唯一神道ノ長上タル吉田白川ス  
 ラ如レ此何ソ其配下タル者違背シテ安リコ佛法ヲ誹謗スルヤ且諸國ノ大社コハ神宮寺在テ神前ハ法  
 味ヲ備フ故ニ神主ヨリハ別當ハ其位高シ愛ヲ以テ諸神佛法ヲ嫌ヒ玉ハカル事ヲ知ルベシ若八百萬

神神忌嫌ヒ玉ハ如何ソカクハ佛法盛ニ行ハルベキ其上諸神ノ稱號迄佛ノ名字ヲ以テ付奉リ大明神  
 大權現等ト祝ヒ奉リ法味ヲ備レハ諸神感應マシマスハ偏ニ本地ノ佛悦ビ玉フ故ニ垂迹ノ神モヨク  
 ビ玉フ道理ソカシ然ルヲ神ハ佛法ヲ嫌フ故伊勢ニ於テハ僧尼ノ參詣ヲユルサザル由ヲ申ス者アリ其  
 以テ不審ノ義也若天照太神僧尼ヲ嫌ヒ玉フ者ナレバ神孫タル一天ノ君ノ御節ヲヲ落サセ玉ヒ法諱ヲ  
 稱シマイラスルヲハ何ア神力ヲ以テ止メザルヤ將又伊勢兩宮ノ錠アツカリハ慶光院ト申ス尼寺ニシ  
 テ神職ノ者タリトイヘドモ此尼上人扉ヲ開カザル内ハ拜スル事アタハス此慶光院ハ慶長以前ニ毎度  
 太神宮ノ宮殿ヲ造替セシ尼寺ナレバ其後モ官ヨリ御造替ノトキ正迂宮ヲトリ行フベキ旨此寺ニ仰下  
 セレタリ爰ヲ以テ伊勢ノ御師春木山本ノ兩太夫ハ元コノ寺ノ家司トコソ承レ然ルトヤハソノカミ此  
 寺ニテ宮殿ヲ造替アリシ故天照太神モ其思ヲ存シ此尼上人一人計リハ好マセ玉ヒ其外ノ出家ハサル  
 事モナキ故我徳トモナラザル故嫌フトイハハ是ハ凡人ノ心ナルベシ豈實ノ天照太神ナランニハカ  
 ル好惡ノ義アルベカラズ是全ク神職ノ輩佛法ヲ忌ガ故ニ已々ガ心ヨリ恐レ多クモ神慮ナリト世人ヲ  
 誑惑スルナルベシ彌佛法ヲ嫌ヒ玉ハサル證ヲ申サハ神宮雜事記ニ云ク聖武天皇欲レ建立ニ東大寺ヲ  
 天平十三年勅ニ行基ニ授ニ佛舍利一粒ヲ獻ニ伊勢皇太神宮ニ居七日其夜神殿自開大聲ニ唱テ曰ク實相眞



如ノ日輪ハ照ニ生死長夜ニ本有常住ノ月輪ハ破ニ煩惱之迷雲ニ我今逢ニ難ニ遇大願ニ如ニ波ニ得ニ結ニ云云  
 又タ同年十一月十三日右大臣橘ノ諸兄公ヲ伊勢ニ遣シ伺ハシム十五日ニ飯洛ス其夜夢ニ皇太神宮告  
 ア曰ク日輪者是毘盧遮那也帝待ニ其意ニヲ爲ニ營興ニ言已テ現ニ日輪ノ相ヲ其光赫皆ト云云然則ハ天照  
 太神ハ本地毘盧遮那也此毘盧遮那トハ釋尊ノ異名也觀普賢經ニ云ク釋迦牟尼名ニ毘盧遮那徧一切處  
 ト其佛ノ住所名ニ帝寂光ト云云毘盧遮那トハ天竺ノ語唐ニハ大日ト云其大日如來ト云ガ即チ釋尊ノ  
 異名ナリト云經文ナリ爰ヲ以テ太神宮ハ即チ日ノ神ニシテ今ノ夢ニモ日輪ノ相ヲ現シ玉ヲ事久遠ヲ  
 釋尊ノ垂迹ナル事疑フベキコ非ズ是久遠ト申スハ年代ヲ計リシルベキ數ニアラザレバ今日ノ釋尊ヲ  
 以テ諸神ノ本地ト云コハ非ズ過去久遠劫ノ佛ヲサシテ云也故ニ神佛ニ体ナルヲモテ遂ガタキ大願  
 ニ遂トコロコビ玉ヲ實相眞如ト申スハ迹門方便品ノ意本有常住トハ本門壽量品ノ意也又タ八幡大菩  
 薩ニ則チ久成ノ釋迦佛也吉田兼右正宗秘要ニ云ク人皇五十七代陽成帝元慶元年十一月十三日權大宮  
 可藤原實光ガ女七歳ナルニ詔宣シテ曰ク我持ニ日本國ニ示現大明神ト本体ハ是釋迦如來也云云  
 此事神學類聚抄ニモ出タリ又宇佐八幡宮記ニ云ク欽明天皇卅一年二月十日三歳ノ童子乘ニ竹葉ノ上  
 曰ク我即チ釋迦佛ノ化身也念一度ニ一切衆生方現ニ神道我是人皇第十六代譽田天皇廣幡八幡廣也我

名ニ護國靈驗威力神通大自在王菩薩ニ國々所々ニ垂迹於神道ニト云云爰ニ知シメテ吾朝ノ宗廟  
 ノ天照太神八幡大菩薩久遠ノ釋尊ノ化身タラシム登ニ其他ノ用ノ神化身ナラズト云理アランヤ經ニ  
 云ク或示己身或示他身名字不同年紀大小ト説キ玉ヲ是也故ニ傳教天師宇佐ニ參籠シテ法華ヲ讀シ法  
 味ニ備ヘシカハ八幡大菩薩歡喜ノアマヲ紫ノ袈裟ヲ布施シ玉ヲ其袈裟現ニ山門山王院ニアリト本朝  
 法華傳ニモ見ヘタリ其外賀茂春日住吉等ノ諸神ヲ始トシテ佛法ヲ好マセ玉フト云フ既宜勝ヲガシ  
 ガタシ故ニ新勅撰集ニモ八百萬神ノメグニモマコトニハ三世ノホトケノ誓ヒナケリト云歌アリ此  
 ニ首ニテモ本佛迹神ノ道理分明也若マタ僞リナリト云ハハ天子勅シテ撰ハセ玉フ歌ニ何ソ是ヲノセ  
 タリヤ爰ニ知シ又神託ト申シ勅撰ト申シ其外正史雜記等ニ至ル迄本地垂迹ノ旨明カ也依レ之本佛ノ  
 好マセ玉ヲ法ナルガ故迹神ニ好マセ玉ヲ神ノ好マセ玉ヲ故ニ神統ヲツカセ玉ヲ帝王モ又好マセ玉  
 ト神前ニ於テ法華經ノ法味ヲ備フベキ由聖德太子ノ憲法ニノセタリ其文ニ云ク唯學ニ大乘ニ尊貴ニ神  
 明ト云云又續日本後記ニ云ク仁明天皇承和二年十一月朔日勅シテ曰ク護持ニシテ神道ニ不如ニ乘  
 之力ニ轉ニ福亦憑ニ修善之功ニ宜道ニ五畿七道僧各一口ニ毎ニ國內ノ名神社ニ令レ讀ニ法華經一部ニ必  
 期ニ靈驗ニヲト云云是則チ天子勅シテ日本國中ノ大社ニテハ僧一人宛ニ法華ヲヨマシメ法味ニ備ヘバ



其國災害ナガラント云義也カレバ鎌倉鶴岡ノ八幡ノ神前ニテモ座不冷ノ行法ヲテ沿承四年十月十六日ヨリ頼朝卿ノ御願トシテ長日ノ勤行ヲ始メラル所謂法華仁王最勝王等ノ鎮護國家ノ三部妙典也ト云事東鑑ヲ引テ鎌倉志ニモノモタク如此一天ノ君ノ勅定右大將家ノ御願等ヲ以テ見ルニ上好セ玉フ妙法ナレバ下萬民モ是ヲ尊信セズンハアルベカラス然ルニ俗談ノ神道者動モスレバ佛法ヲ誹謗スルハ神慮勅定ヲモ分別セズバガ管長タル吉田白川ヲモ蔑如スルコナルベシカハルモノハ太神宮ノ託宣ノ如ク根ノ國底ノ國ニヤマヨフ者也根ノ國底ノ國ト云ハ地獄ノ事ナリ是ヲ法華經ニハ若人不信毀謗此經其人命終テ入三阿鼻獄ト云云是罪ヲマスカレント欲セバ速ニ法華ニ皈シテ其祭ル所ノ神体ヲタシシ妙法ノ法味ヲ備ルトキハ諸神悦ビ玉ヒテ利益ヲ施シ玉フ故現當ノ所願成就セズト云事ナシ故ヘニ經ニ云ク當ニ於今世得ニ現果報トモ所願不虛亦於現世得ニ其福報トモ説キ玉ヒタルバ敢テ金言ヲ疑フ事ナカレヤ又此神ト申ニ付テ法性神有覺神實送神ノ三義アリ吉田兼邦神祇正宗ニ曰ク法性神ト者法身ノ如來ト同体ニシテ今宗廟ノ内證是也此神コハ本地垂迹ヲ立ズニハ有覺神是ハ諸ノ權現ノ本誓隱ニ佛菩薩ノ本ヲ顯ニ萬神ニ在テ云也天照太神八幡大菩薩等ハ神ノ佛トテ利ニ益衆生ニテ謂ニ之權現權者ノ神ト也三コハ謂ニ實送神ト者謂ニ牛馬等ノ死而其靈爲崇ヲト云云

今日述所立ノ神道モ法性有覺等ノ三義ヲ立ル事ハ相似タリトイヘドモ彼ハ法華ニヨラズ此ハ法華經ヲ以テ本トスルガ故ヘヨ吉田流ノ神道ニ非ス故ニ高祖大士ノ神祇門御書ニ曰ク又神ト申スニ有ニ三義ニ一ニ者權者ノ神ニ一ニ者實者ノ神也權者ノ神ト申ハ出ニ法性都利ニ益衆生ニテ玉フ依レ之日本ヲ守護シ玉フ天神七代地神五代ノ神也其本地ヲ尋レバ久遠實成ノ釋迦如來大悲方便ノ化身也乃至三身即一ナルカ故ナリト云云コノ權者ノ神ガ有覺神ニシテ法性ノ都ヨリ衆生利益ノタメ天照八幡等ト顯レ玉ヒ是國ニ鎮座在トイヘドモ法華經ノ法味ヲ備フルトキハ勢力ヲマシテ守護ヲ加ヘ玉ヒ法味ヲ備ヘサルトキハ勢力ヲラザル故天上シ玉フ事神書ニハ實基本紀引ガ如ク佛書ニハ金光明經四天王護國品ニ云ク四天王共俱合掌白佛ニ言、世尊若於其國土ニ雖レ有ニ此經ニ未ニ曾流布ニ心生捨離ニ不レ樂ニ干聞ニ亦不ニ供養尊重讚歎ニ見ニ四部衆ノ持經人ニ亦復不レ能ニ尊重供養ニ遂ニ令ニ我等及餘ノ眷屬無量ノ諸天ニ不レ得レ聽ニ此甚深ノ妙法ニ背ニ甘露ノ味ニ失ニ正法ノ流ニ無レ有ニ威光及勢力ニ増ニ長惡起損ニ滅人天ニ墮ニ生死河ニ乖ニ涅槃路ニ爾時我等四王並ニ諸ノ眷屬及夜叉等見レ如此捨ニ其國土ニ無ニ擁護之心ニ非ニ但我等捨ニ棄此土ニ亦有ニ無量守ニ護國土ニ諸天善神ト皆悉ク捨去ト云云豐受皇太神宮鎮座本紀ニ曰ク夫逆レ天則無レ道逆レ地則無レ德外走ニ本居ニ没ニ落根國ト云云此等ニヨリテ見ルトキハ妙法ノ法味ヲ受ザレバ



諸天ノモカ其國ノ守護神モ勢力ナクシテ守ルコトアタハザレバ其國ヲ去テ本居ニ皈リ玉フト云文ナ  
 リ爰ニ於テ邪在實迷神タル天狗狐狸ノ類其外一切ノ魔類時ヲ得タリト其社ニ入替リ己ケガ分ニ應ジ  
 テ持場ヲ定メ其祭所ノ正神ノ如ク人ニテモハセ其神々ノ氏子ヲ我モノトナシ備物等ヲ受テハ惡縁ヲ  
 一切衆生ニ結バンメ途ニ惡道ニ引入レントスルヲ人間ハ凡眼ニヘシラズシテ實ノ大明神大權現等ノ  
 神靈在ス事ヨト心得尊敬スルガ故ニ己ガ業通ヲ以テイサ、カノ利益ヲ與ヘテ惡道ニ引入ル、ナリ是  
 ヲ知ント欲セバタトヘ凡眼タリトモ佛敎ノ鏡ニ向フ時ハ明カ也文殊問經ニ曰ク與ニ邪見相似是等可  
 捨不應ニ禮拜ト云云故ヘニ吾宗ニテハ先ツ其神ノ權實ヲ糺シ他宗勸請ノ諸神ハ妙法ノ味イヲ受ザ  
 ル間有名無實ニシテ唯徒ニ魔類ノ栖トナレバ行テ惡縁ヲ結バンヨリ參詣セザルニシクハナケレバ此  
 經文ニヨリテ法華勸請ノ諸神ノ外ハ參詣ヲ嚴禁スル者也是則テ論語ニ敬ニ鬼神ニ遠焉可謂知云フモ  
 此經文ト替ル事ナシ其故ハ聖人鬼神ヲ申ス事明カナレバ鬼神ナキニ非スルガ故ニ是ニ敬セシムハ  
 アラズ然レドモ人皆聖ナラザレバ鬼神ノ邪正ヲ知ル事アタハズ依レ之ニ遠ケテテクガ其鬼神ノ正邪  
 ナ知ルト云ベシトノ意ナレバ邪見ト似タル拜スベカラズトノ義ト同シヤレバ吾宗所立ノ神道ハ我意  
 ニ非ス經文ニヨル處也日蓮大士兼テ此ノコトヲ知召スノ間新池殿御書ニ曰ク此國ハ謗法ノ土ナレバ

守護ノ善神法味ニウエテ社ヲ捨テ天ニ昇リ玉ヘハ社ニハ惡鬼神入替テ多ク人ヲ惡道ニ引導ス佛陀ハ  
 化ヲ止テ寂光ノ本國ヘ皈リ玉ヘバ堂塔寺社ハ徒ラニ魔王ノ栖トナルト仰セノコサレ惡魔ニ縁ナムス  
 バシメヌヤウニ權教勸請ノ堂社ヘ參詣スルヲ禁ツサセ玉フヨリテ神道ノ長上吉田家ニテモ法華宗ニ  
 テ天照太神等ヲ勸請シ奉ルヲ妨ルコトナシ其上妙ト神トハ其旨ヲ同スル事吉田兼俱ノ妙顯寺ヘ遣  
 ハサレシ狀ニ明カ也其詞ニ日本朝弘長春有ニ觀レ日乘道人一日入ニ子祖家ニ問ニ吾神道ニ答ルニ以  
 義乃至神明而顯レ妙妙明ニシテ顯レ神ヲ嗚呼神妙ノ二字爲ニ能說ニ爲ニ所說明應六年二月六日妙顯寺  
 御房江ト云云神代ノ卷ニ曰ク其清陽者滯而爲レ天重濁者滯而爲レ地精妙之合攝易ト云云神道ハ妙  
 ノ一字ヲ以テ天地ノ開ケヲ說ク也妙ニ非レバ天地ノ理ヲ說ク事アタハズ日蓮大士曰ク妙ト云ハ開ク  
 ノ義ナリト云云是即チ神儒佛共ニ内證一致ナル故ニ神書ニハ妙ヲ說キ妙經ニハ神ヲ說ク法華經ニ曰  
 ク如來秘密神通之力ト云云又タ曰ク爲レ悅ニ衆生ニヲ故ニ現ニ無量神力ト云云高祖ノ御義口傳ニ曰ク  
 妙法蓮華經ハ如來ト神ノ力ノ品也ト云云是即チ佛モ神モ法華經ヲ以テ力トシ玉ヒ一切衆生ヲ守護シ玉  
 フト云事明カナリ豈妙ヲハナレテ外ニ法アラシヤ故ニ佛神ハ妙法ヲ以テ衣食住ノ三トシ玉フ所以イ  
 カントナレバ法味ヲ以テ勢力ヲ益スハ食也松尾明神ノ法華ノ法味ヲ受ザレバ貪癡之風通ニ我廣ニサト



云ハ妙法ハ衣トナル證也此事元亨釋書ニアリ法華經ニ曰ク佛ハ自ラ住ニ大乘ト云云本地ノ佛大乘ノ妙法ニ住シ玉フニ迹ノ諸神何ツ最ニ遠フヘキ本迹異ナリトイヘドモ内證同シカガ故也天台曰ク本迹雖レ殊不思議一ト釋セラレタル是ナリサレバ神儒佛三道本地ノ妙法ニ皈スルハ唯一神道也三外ノ神道ハ吾宗ニ用ヒザル所ナリ此佛神ノ師トナリ衣食住トナル尊重ノ妙法ヲ受持スレバ身ハ輕シト法重キガ故ニ諸天晝夜常ニ爲レ法故而術ニ護之ト安樂行品ニ説セ玉ヘバ法華經ノ所在ノ國土ハ諸神守ラセ玉フ事何ノ疑カアラシヤ爰ニ 我日本國ハ法華一實ノ流布スベキ國ナルガ故藥王化身天台ハ唐土ニ出生シ天台ノ再誕傳教ハ本邦ニ生レテ迹門理具ノ法門ヲ弘メ其上山王一實ノ神道ヲ立テ法華經ト釋尊ヲ以テ本トセリ其畧ヲ申サバ叡山ニテ山王權現示現アリシカバ傳教大師本地ヲ尋ラレシニ神答テ曰ク今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子ト云云其時大地震動シ天雨ニ妙華ニ寶塔空ニ現ニ佛同座相好圓滿宣説妙法ト云云是則チ山王ノ本地ハ久成ノ釋尊ナルコト明ケシ故ニ相傳秘釋ニ云會ニ諸神ノ權ニ歸ニ山王一實ニ矣意ハ釋迦一代ノ佛法會ニ三權ニ皈ニ一實ノ法華ニ今亦會ニ諸神ノ權ニ奉ニ覽ニ山王ト矣ト云云是即チ一切ノ法ハ法華ヨリ出タルバ法華ニ皈入シ一切ノ諸佛ハ釋尊ノ分身ナレバ本佛ノ釋尊ニ皈シ一切ノ諸神ハ釋尊ノ垂迹山王ノ分身ナレバ山王ニ皈スト云議也匡房記ニ山王

一社之外無ニ諸神一切ノ諸神ハ皆山王ノ分身也ト云云是ニテモ一切ノ諸神ノ本ハ釋尊ナルコト明白也雖レ然彼ハ迷化ノ菩薩ノ故ニ垂迹ノ山王ヲ以テ本神ト定ム此ハ本化ノ薩垂ナル故本門ノ本師久成ノ釋尊ヲ本地ノ神トシ神力別付ノ妙法ヲ受持本佛迹神ノ誓願ニマカセテ是ヲ法味ニ備ヘ奉ツテ諸神ヲ勸請シ敢テ權門ノ社ニ至ラズ惡鬼神ヲ遠ケテ正神ニ皈スル此其祭ルトコロノ神体ヲ知ルコナリ又是ヲ吾宗ノ神道ト云也サレバ後五百歲ノ記文ニタカハズ當今ハ末法ニ入テ七百餘年後ノ五百ノ最中ナレバ神國自然ト佛國トナリ元和寛永ノコロヨリコトサテ邪教查檢ノタメ天下萬民ノ宗旨ヲ定メ皆悉ク佛道ニ入ラシム故ヘニ神職ヲトイヘドモ神道ノ管領吉田白川ノ免許ナキ者ハ妄リニ神葬ヲスル事ヲユルシ玉ハズサレバ此ニソムク徒ハ國法佛法ニ敵シ神慮ヲ蔑如スル凡俗ナレバ遂ニ惡赴ニ墮セン事ヲソルベキ事ニアラズヤ是ヲマヌカレント思ハマニ外誹謗ノ神道ヲ捨テテ三即一ノ神道ニ皈シ諸佛諸神ノ本師タル妙法五字ヲ信受スベシ此五字ト申ハイカナレバ如此ノ尊上ナラント尋ネ奉レバ日蓮大士ノ御書ニ云ク妙法蓮華經ハ一切衆生ノ佛性也佛性トハ法性也法性トハ菩提也所謂釋迦多寶十方ノ諸佛上行無邊行等普賢文殊舍利佛目連大梵天王釋提桓因日月北斗七星二十八宿龍神八部八天大會閻魔法皇上ハ悲想ノ雲ノ上下ハ那落ノ底ニ所有一切衆生ノ所備佛性ヲ妙法蓮華經ト名



付ル也ト云云ハ是ヨリ外ニハ法ナキ故是ヲ法味ニ備ヘ奉リ訪法ノ念慮ナシ心口意三業ニ信受ス  
 ルトキハ諸神ノ悦ビ是ニシクコトナレ太神宮ノ託宣ニ遇カタキ大願ニアフト云是也法華經ニ云此經  
 ハ難レ持者暫モ持者我則歡喜ス諸佛モ亦然リト云云本佛歡喜シ玉ハ、迹神何ゾ歡喜セザル事ノアル  
 ベキヤ佛神歡喜シ玉ハ、現當ノ所願成就セズト云コトナシ御書ニ云ク大地ハサスハ外ル、トモ虚空  
 ラツナクモノハアリトモシオノミナヒスコトハアリトモ日ハ西ヨリ出ルトモ法華經ノ行者ノ祈ノ叶  
 ハスコトハ有ベカラズ法華經ノ行者ヲ諸ノ菩薩人天八部二聖二天十羅刹ノ女等千ニ一ツモ來テ守護  
 シ玉ハ事待テハ上ハ釋迦諸佛ヲアツリ奉リ下ハ九界ヲオホラカス失アラン行者ハ不實ナリトモ  
 智慧ハヲロカ也トモ身ハ不淨ナリトモ戒徳ハツナヘズトモ南無妙法蓮華經ト申サバ必ず守護シ玉フ  
 ベシト云云經ニ云ク但能擁護受持法華ノ名ヲ者上福不可量ト云云故テ金言ヲ勿レ疑

◎法華宗門即身成佛大意之事

次ニ即身成佛ノ法門ハ我宗ノ大事ナレバ淺學短才ノ身コシテ忘リニ顯示スル事其恐レナキニ非ズト  
 イヘドモ諸宗ノ勝劣ノヲ論シテ成佛ノ義ヲノベズンバ即身成佛ト申スハイカンカ心得ベシト諸人  
 モシ疑テ生セバ返テ罪モヤ候ハント存シ其大畧ヲノベテ童蒙ニ示スベシ録内御書大田殿女房御返事

ニ天台文句ノ九ヲ引テ云ク佛於三世ニ等ク有三身ニ於諸經ノ中ニ秘レ之不傳カ、レテ候是コソ  
 即身成佛ノ明文ニテ候ヘト云云此三身ト申スハ本來本有ノ无作ノ三身ナリ御義口傳ニ云ク十界本有  
 無作ノ三身ニシテ來ル佛也ト云ヘリ又云ク成ハ開ノ義也法界ヲ無作ノ三身ノ佛ト開ケリ佛トハ此  
 ヲ覺知スルヲ云ナリト云云即チ我身モ法界モ本ヨリノ佛ナリト知ル義也雖然我身ヲ知ント欲スル  
 ニハ此世界ノ出來セシ始ヲ知ザルトキハ我身モシレガタシ其故ハ世界ハ大寶塔我身ハ小寶塔ナレバ  
 人ヲ小天地ト云モ此理也故ニ法師功德品ニ云ク三千世界中一切諸ノ群萌天人阿修羅地獄鬼畜生乃至  
 鐵圍及彌樓摩訶彌樓山諸ノ大海等皆於三身中ニ現ト云云此經文ヲ以テ見ルトキハ天地ニ有所ノ森羅  
 萬像人身ニ備ハラズト云事ナシサレバ先ヅコノ世界ハ何レヨリ出生セシト考ルニ物皆無因有果ト云  
 道理ハ會テ以テナキ事ナレバ各必其本アリ爰ヲ以テ玄義ニ云ク妙法蓮華經ハ本地甚深ノ奧藏也ト  
 云ヘリ法華經ニ云ク諸佛如來秘要之藏ト云云經釋ノ意ハ妙法五字ハ一切ノ萬法收リタル藏ナリト云  
 義ナリ此藏ノ中ニ萬物悉ク具足スルヲ以テ是ヲ本門ト稱スコノ本ノ門ヨリ世界ガ出來リテ形アル者  
 トナリタレバ是ヲ迹土ト云ヒ人身モ形アレバ是ヲ迹門ト云フ易ニ云ク形而上者謂ニ道ニ形而下者  
 謂ニ之器ニ文是也其故ハ世界ノ最初成劫ノ時清メルハ上リテ天トナリ濁ルハ下リテ地ト也乾坤定ル



則チ天ハ形ヨリ上ナル者地ハ形ヨリ下ナル者也此天地ノ間ニ五ツノ徳ヲ具ス所謂空大ハ久遠ノ釋尊  
 ニシテ妙徳ヨリ出生シ火大ハ一名上行菩薩ニシテ蓮徳ヨリ出生シ風大ハ二名無邊行菩薩ニシテ法徳  
 ヨリ出生シ水大ハ三名淨行菩薩ニシテ華徳ヨリ出生シ地大ハ四名安立行菩薩ニシテ經徳ヨリ出生ス  
 是一尊四菩薩ハ堅ノ妙法蓮華經ニシテ空風火水地ト顯ハル、ナリ又五行ヲイハハ東ハ木ニシテ其色  
 ノ青キハ本述ニハ持國天王南ハ火ニシテ其色ノ赤キハ本述ニハ增長天王西ハ金ニシテ其色ノ白キハ  
 本述ニハ廣目天王北ハ水ニシテ其色ノ黒キハ本述ニハ毘沙門天王中央ハ土ニシテ其色ノ黄ハ本述ニ  
 ハ鬼子母神ト云則チ妙ガ持國法ガ廣目蓮ガ增長華ガ毘沙門經ガ鬼子母神ト顯ル是五番ノ善神ハ横ノ  
 妙法蓮華經ニシテ木火土金水トモ申ス也北ガ愛染明王南ガ不動明王其外天ノ七曜地ノ五行九山八海  
 及千草萬木ニ至ルマテ皆此本地甚深ノ奧藏ヨリ出生シテ世界ハ常住セリ故ニ法華經ニ云是法住法位  
 世間相常住ト云云意ハ是法トハ妙法蓮華經ヲ云也此法ガ空風火水地東西南北中央ト法位ニ住シ世界  
 ハ常住シテアルト云コトナリサレバ此世界ハ大寶塔ニシテ天ニ七曜アルハ七寶ヲ以テ飾リシヲ表シ  
 地ニ五行アルハ五輪ヲ表ス若然ラバ人ノ一心ハ久遠下種ノ釋尊ニシテ妙也色身ハ多寶如來体ノ腰カ  
 ナルハ上行菩薩出入ノ息ハ無邊行菩薩血ハ淨行菩薩肉ハ安立行菩薩左ノ手ハ持國足ハ增長右ノ手ハ

毘沙門足ハ廣目眼ハ鬼子母神左ハ不動右ハ愛染釋尊ノ菩薩ハ女殊色身ノ菩薩ハ普賢兩眼ハ日月開閉  
 ハ晝夜頭ニ七穴アルハ天ノ七曜ニカダドリテ七寶ノ飾五体ハ地ノ五行ニカダドリテ五輪ヲ表ス愛チ  
 以テ世界ニ有程ノ者ハ悉ク一身ニ具セリ弘決六ニ曰知ニ頭ノ圓象天足方象地身内ノ空種即是虚空  
 腋ノ淵ナルハ法ニ春夏ニ背ノ剛ハ法ニ秋冬ニ四體ハ法ニ四時ニ大節十二ハ法ニ十二月ニ小骨三百六  
 十ハ法ニ三百六十日ニ鼻ノ息ハ法ニ山澤溪谷ノ風ニ口ノ息ハ法ニ虚空ノ風ニ眼ハ法ニ日月ニ開閉  
 法ニ晝夜ニ髮ハ法ニ星辰ニ眉ハ法ニ北斗ニ脈ハ法ニ江河ニ骨ハ法ニ玉石ニ皮肉ハ法ニ地土ニ毛ハ  
 法ニ叢林ニ乃至劫火火風空五大種五蘊五戒五常五智五時只一物シテ經々ノ異說内外典ノ名目ノ  
 異名今經開レ之說一切衆生ノ身中ノ五佛性五智ノ如來ノ種子ナリト是則チ妙法蓮華經ノ五字造ニ人  
 身ノ体ニ也ト云云サレバ人間ノ体ヲ造ルハ悉ク妙法蓮華經ノ力用ニ非スト云フコトナシ又腹内ノ五  
 臟ハ心ハ火ニ屬スル故ニ蓮徳ヨリ生シ肝ハ木ニ屬スル故妙徳ヨリ生シ肺ハ金ニ屬スル故法徳ヨリ生  
 シ脾ハ土ニ屬スル故經徳ヨリ生シ腎ハ水ニ屬スル故華徳ヨリ生ス心中ニハ濕良恭謙讓ノ五ノ徳ヲ具  
 ヘ是ヲ他ヘ及ホストキ仁義禮智信ト云其本ハ妙法蓮華經ノ五字是也又眼ハ妙鼻ハ法舌ハ蓮耳ハ華口  
 ハ經頭ハ妙喉ハ法胸ハ蓮胎ハ華足ハ經是故ニ五尺ノ身体サナカラ五輪ノ寶塔ニシテ妙法蓮華經ノ五



字ヨリ述ヲ垂ル、虎也爰ヲ以テ食スル所ノ物モ酸味ハ妙辛味ハ法苦味ハ蓮鹹キ味ハ華甘味ハ經德  
 リ出生スルノ間世界モ人身モ食物ノ五味モ妙法ノ奧藏ノ門ヨリ出テ形ヲ顯ハシ又本門ヨリ妙法五  
 字ノ奧藏ニ皈スル也タトヘバ春夏秋冬ト代リ行ガ如シ春去テ夏ニナレドモ其替リ目サダカニハ見ヘ  
 ズトイヘドモ日ニ暑氣ヲ催シ春ハ何國ヘカ行ケン知ル人ナシサレドモ秋ヨリ冬ニウツリ冬ヨリ又  
 春ノ來レバ百千萬年過トイヘドモ春ノカハル事ナキハ過去リシ春ハ本地ノ妙德ニ皈シ夏ハ蓮德ヨリ  
 生ズルガ故ニ本ニカヘラアル春ガ時來レバ翌年又本地ノ妙德ヨリ出生スル事環ノ端ナキガ如ク往  
 來屈伸スルガ本來本有常住ノ振舞也是ヲ不生不滅ト云フ故ニ御義口傳ニ云ク本有ノ生死ト見レバ  
 無レ有ニ生死一也無ニ生死一無ニ退出一唯生死ナキニ非ル也生死ヲ見テ厭離スルヲ迷ト云ヒ始覺ト云ナリ  
 本有ノ生死ト知見スルヲ本覺ト云ナリト云云然レバ萬物皆無作三身ノ覺體ナレバ本因本果三世ニハ  
 ナレザルモノト知ルベシ若シ本因ナクンバ本無今有ノ邪見也若シ本果ナクンバ本有今無也互ニ正見  
 ニ非ズ法華經一部モ我等ガ一身ヨリ外ニハナキナリ法華經即色心也經內二十八如是抄ニ曰ク妙法  
 蓮華經ノ體ハトイヘバ我心性八葉ノ白蓮ニチアリケル也サレバ我身ノ體性ヲ妙法蓮華經トハ申ケル  
 事ナレバ經ノ名ニテハ非ズハヤ我身ノ體ナリト知リヌレバ我身ヤガテ法華經ニテ法華經ハ我身ヲ

ハアラハレ玉ヒケル也ト云云又緣外成佛法華肝心口傳身造抄ニ曰ク法華經二十八品ハ以テニ我身ヲ一  
 成メル也八萬四千ノ毛孔ハ法華開結十卷ノ文字也併ラ眞佛也乃至左右ノ十指ハ十界也左右ノ節ノ二  
 十八ハ本迹二十八品也未敷蓮華ノ印ヲ結ヘバ和合ノ八葉也八葉ヲ開クハ十界也是則二十八品左ハ地  
 獄等ノ五道右ハ佛菩薩ノ五道又十娑羅密ハ十地也十界和合スルヲ合掌ト云則十界ヲ五道ニテ、ム心  
 也是ヲ開ケハ本有ノ十界モアラハレ二十八品モ顯レヌレバ本ヨリ生死ノ二苦アル事ナシ三界皆寂光  
 也此身自六道ニ下ル又爲ニ衆生化度一也所以ハ隨順ニシテ此身成佛スレバ此界悉ク成佛ス成佛シテ  
 化ニ衆生ヲ一故ニ傳教大師云ク三世不斷ニ下リ三世不斷ニ迹スト云云三世不斷ニ下ルトハ第九識心王  
 眞如ノ都ヨリ隨緣シテ一念ノ善トモ惡トモサダメラズシテ出ル處ヲ八識ト云此一念動搖シテ一切ノ  
 境界ニ向フ處ヲ七識ト云七識動テ善惡ノ業ヲ結フヲ六識ト云六識ノ業感シ未來ノ色報ヲ得ル也依レ  
 之惡ヲナセバ三惡道ノ身ヲ感ズ菩提心ヲ發スレバ佛菩薩ノ身ヲ感ズ又三世不斷ニ寂ストハ此心翻テ  
 法性同體トナリ進シテ九識ノ本理ニ叶ヒ實相眞如ノ都ニ居住スルヲ云也サレバ即身成佛ノ法門要ヲ  
 取テカクノ如シコレニ迷フヲ凡夫ト云ヒ是ヲ悟ルヲ佛ト云迷悟一如ナルガ故也此無作三身ノ佛ノ住  
 所ガ我等ガ身体ナレバ昂則寶塔也此赴ヲ阿佛房御書ニ示シテ曰ク今日蓮ガ弟子且那ノ法華經ヲ持ッ



男女ノスガタヨリ外ニ寄塔ナキ也若然ラバ尊賤上下ヲニラハズ南無妙法蓮華經ト唱ル者ハ我身寶塔  
 ニシテ我身名寶如來也妙法蓮華經ノ外ニ寄塔ナキ也法華經ノ題目寶塔也寶塔又南無妙法蓮華經也今  
 阿彌上人ノ一身ハ地水火風空ノ五大也此五大ハ題目ノ五字也ト云云御義口傳ニ云ク寶塔者五陰也塔  
 者和合也五陰和合ヲ以テ寶塔ト云也此五陰和合ト者妙法ノ五字也ト云云釋ニ云五陰和合ヲ名爲  
 衆生ト云云是ヲ以テ見ルニ衆生即寶塔ナレバ是寶塔ノ中ニハ本來本有ノ十界ヲ具スルガ故ニ我身  
 即十界本有ノ葛院羅ニシ本尊也御義口傳ニ云ク時ト者本時娑婆世界ノ時也下ハ十界宛然ノ葛院羅ヲ  
 顯ハス文也其故ハ時ト者末法弟五ノ時也我ト者釋尊及ハ菩薩衆僧ハ二乘俱ハ六道也出ト者靈山淨  
 土ニ利出スル也靈山トハ御本尊也今日蓮等ノ類奉レ唱レ南無妙法蓮華經ト者ノ住所ヲ説也ト云云此  
 論ヲ以テ拜シ奉ルニ我身本尊ニレテ即靈山也靈山ト知ル時ハ佛ノ寶塔ナルガ故身中ニ久遠無作三身  
 ノ佛マシマス也其佛ノ寶號ヲ南無妙法蓮華經トハ申ス也其久遠ノ佛トハ法華經ヲ持ツ男女ノ事也其  
 故ニ又云ク久遠トハ働カサズクハズモトシ儘ト云義也無作ノ三身ナレバ初チナラズ三十二相八  
 十種好具足セザレバマクハハザル也本有常住ノ佛ナレバ本ノ體也ト云云傳教云ク自受用身ハ出  
 形佛ト云矣尊形ノ佛トハ無作ノ三身ト云事也ト云云キハ釋尊ノ佛體ヲ持チナカラ迷テ知ラザリシヲ

宋法ノ大導師吾祖日蓮大菩薩ノ不惜身命ノ御弘通ニ依テ我等心中ノ佛性ヲ見ル事ヲ得ル此大恩ハ詞  
 ヲ以テ尽スベキニ非ズモシ高祖ナカリセハ誰カ身命ヲ捨テ佛性ヲ見セシムルモノアラシヤ此佛性  
 ヲ高祖佐渡ノ國ヨリタラセ玉ヒシ後文永十年七月八日初チ顯シ玉フ則チ本門ノ本尊是也此本尊ヲ心  
 中ニツケハ理具ニシテ迹門顯ハセハ事具ニシテ本門也餘外二十三ニ云ク日蓮カ弘通スル法門ハ此事  
 ヲ直ニ書アラハセルナリ我等ガ胸ノ中ニツケバ理ノ一念三千アラハセバ事ノ一念三千也ト云云サレ  
 バ本門ノ御本尊ニ向ヒ我等ガ迹ノ門ヲ開テ南無妙法蓮華經ト唱ヘ奉ル時合掌スル處ノ右手ノ指ノ節  
 十四ハ本門十四品五本ノ指ハ本門ノ題目左ノ十四節ハ迹門十四品五本ノ指ハ迹門ノ題目合掌シテ實  
 相ノ印ヲ結ビシ處ガ本迹二十八品六萬九千三百八十四文字收メシ形チ也六難九易抄ニ曰ク南無妙法  
 蓮華經ノ題目ノ内ニハ一部八卷二十八品六萬九千三百八十四文字モレスカケズオサメテ候トアル是  
 ナリ此題目ヲ迹ノ我が唱ヘ本門ノ本尊ニ向テ拜シ奉ル處ガ日蓮所立ノ本迹一致ノ題目也カゾノ如ク  
 得意シテ修行セバ一返ハ一部十返ハ十部法華經ヲ眞讀スルニナリヌサテ其本迹ヲ一致ト合スル事ハ  
 尋常品ニ曰ク構菴和合與子令腹ト云云是ヲ御義口傳ニ釋シテ曰ク題目ノ五字ニ一法トシテ具足セズ  
 ト云フ事ナシ若シ腹スル者ハ速ニ苦惱ヲ除クト云云此萬法具足ノ題目ガ本門ナレバ此本ヨリ人身出



生レテ事前ニ説カ如クナレバ人死シテモ燒テ灰トナラズ埋テ土トモナラズ皆本國土妙ヘカヘル也吾  
 宗葬式ノ時ハ天蓋ヲ上ニカケ其四方ニ四天アリ中央ハ鬼子母神棺ノ四方ニハ上行無邊行淨行安立行  
 ノ四大菩薩ノ幡ヲ立四大ハ四菩薩受取セ玉ヒ五体ハ五番ノ善神受取り玉フ我物トテハ精神ノミナリ  
 此精神現在ニ法華經ヲ持テバ日蓮大士迎ニ出サセ玉ヒ寂光ノ都ニ住セシメ玉フ是則本國土妙ヘ還皈  
 スル也故ニ常住ノ生死ナレバ生レタリトモ悦ベキニ非ス死スルモ哀ムベキニ非ズサレト凡夫ハ主師  
 親並ニ親族等ノ死ヲイタミ生ヲ悦ブハ常ノ習ヒナレバ敢テ是非ト云フニハ非ズ既ニ佛般涅槃シ玉  
 フ時九界ノ衆生悉悲哀セシ是ナリ唯觀念ト所行トチ分別シ偏執ナカラシム事ヲ示スノミカクノ如ク常  
 住ノ生死ハ本來無作ノ三身ノ佛ノフルマヒナレバ是ヲ即身成佛トモ本尊ノ寶塔ニ入ルトモ申スナリ  
 其即身成佛ト云ハ名字即ヨリ佛位ニ至ルヲ云フサレバ凡僧タリトイフトモ觀念シテ引導ヲ授ケルト  
 キハ受ル人信心ナルカ故ニ悟道ノ大意ヲ得テ佛果ヲ成ズトヘハ受ル人ハ火口ノ如シ授ル人ノ法門  
 ハ日天子ノ光明ノ如シ信心ハ水晶ノ如シ此水晶ヲ出セバ日天子ノ火氣ノ火口ニウツルガ如ク妙法ノ  
 信力ニヨリテ授ル人ノ法意ヲ悟リ是迄ノ煩惱ノ惑ヲ去テ菩提ノ理ヲトル是ヲ煩惱即菩提トハ申ス也  
 此菩提ヲ得時ヲ本覺ノ如來ト云フ此佛ノ住所ガ即寂光ノ本土ナレバ我等ガ色身心性トモニ久遠ヨリ

佛タリシヲ迷フテシラザリシガ今度又妙法蓮華經ニ逢奉リ此經力ニヨリテ本來有ノ理ヲ悟リ寂光  
 土ヲ以テ住所トスル事偏ニ多年ノ行功ニヨレバ現在ニハ信心息ル事ナク深謗法ヲ慎シミ即身成佛ノ  
 衆懷ヲ遂グベシ是ト申スモ全ク妙法蓮華經ノ五字ノフルマヒナレバ釋尊モ唯此事ノミニテ出現セサ  
 セ玉ヒシ也故ニ法華經ニハ諸佛世尊ハ唯以テニ一大事ノ因縁ヲ故ニ出ニ現玉フ於世ニト云云此一大  
 事トハ御轉口傳ニ曰ク一ト者妙也大ト者法也事ト者運也因ト者華也緣ト者經也乃至此五尺ノ身ハ妙  
 法蓮華經ノ五字也此大事ヲ釋迦如來ハ四十餘年ノ間隱密シ玉フ此大事ヲ説ンカタメ佛ヘ出世シ玉フ  
 我等一心ハ妙法ノ五字也ト開佛知見スルトキ即身成佛スル也ト云云即身成佛ノ法門詮ヲ取テ如此  
 故ニ新池ドノ御書ニ曰ク經文ノ如クニ人ノ言葉ヲ用ヒズ法華經一部ニ背ク事ナケレバ佛ニ成候ゾ佛  
 ニナリ候事ハ別ノ様ハ候ハス南無妙法蓮華經ト他事ナク唱ヘ申シテ候ヘハ天然ト三十二相八十種好  
 テ備ル也如我等無異ト申シテ釋尊程ノ佛ニヤスノハト成ルナリタトヘハ鳥ノ卵ハ始ハ水也其水ノ中  
 ヲリ離ガナストハナケレドモ皆ヨ目ヨトガサリ出來テ虚空ニカケルガ如シ我等モ無明ノ卵ニテアサ  
 マシキ身ナレドモ南無妙法蓮華經ノ唱ヘノ母ニテアタラシラレバイラセテ三十二相ノ皆出來テ八十種  
 好ノヨロヒ毛オイトロヒテ寶相真如ノ虚空ニカケルベシト云云今末法下根下機ノ一切衆生速ニカク



ノ如クノ佛身ヲ成就スル事偏ニ法華經ト釋尊ト本化ノ化身日蓮大士トノ大慈大悲ノ大恩ニヨル處ナ  
レバ造次顛沛ニモ是大恩ヲ忘ルベカラス南無妙法蓮華經南無妙法蓮華經

明治三十三年十二月二十八日出版  
明治三十三年十二月三十一日發行

(定價金拾錢)

山梨縣西八代郡山保村第六十六番戶

著作  
發行者 佐野壽治郎

山梨縣甲府市柳町貳百三十七番戶

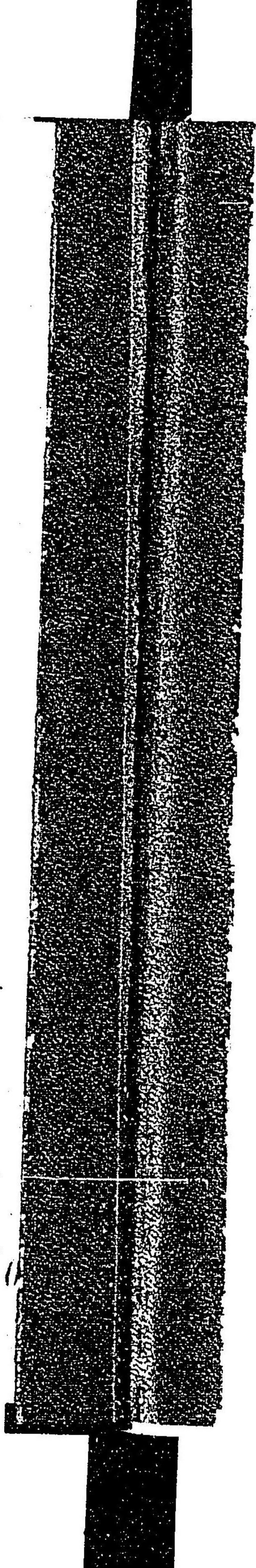
印刷所 芳文堂活版所



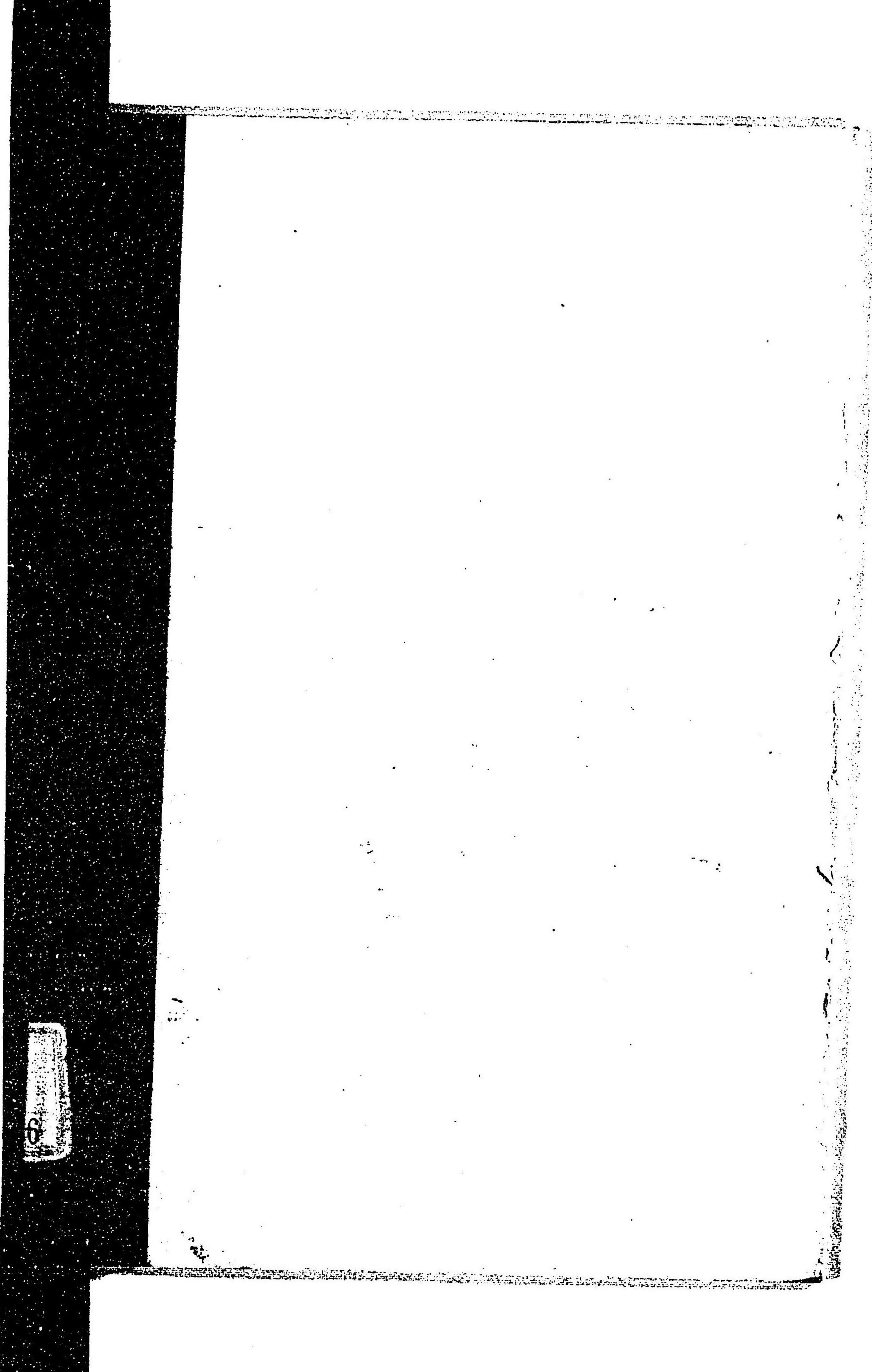
N-23

1. 關於...  
 2. 關於...  
 3. 關於...  
 4. 關於...  
 5. 關於...  
 6. 關於...  
 7. 關於...  
 8. 關於...  
 9. 關於...  
 10. 關於...









CP



法華初心得章節要

玄唱院日雄

国立国会図書館

020132-000-9

特51-986

法華初心得章節要

日雄/著

M33.12

ABH-0344



特5

9



